

2024年1月14日（日）／説教者：國分美生

説教：「命を応援する」

聖書：マルコによる福音書 6：30～44

マルコには4回、「スプランクニゾマイ」というギリシア語の動詞が出てきます。本日の箇所では34節の「飼い主のいない羊のようなありさまを深く憐れみ」というこの「深く憐れみ」の部分です。これは、イエス・キリストの心の動きに対してだけ用いられ、「内臓が揺り動かされる」・「はらわたがわななく」というような激しい痛みのニュアンスを持つ言葉です。イエスは群衆を見て自分のはらわたがちぎれるほどに、何とかしてあげたいと思った。それはイエスがどういうお方か、神の憐れみとはどれほど深いものであるかを私たちに再確認させます。イエスの奇跡行為は、奇抜で不思議なことをやって見せて、見る人を圧倒させるためというものではなく、癒し行為と深く結びついています。

しばし休息をとるために人里離れた場所に向かったイエスと弟子たちを群衆が追いかけて、先回りすらしめます。群衆にとってはそれほどイエスの言葉と業が、心、体、魂を生かす重要なものであった、ということを感じ知らされる描写です。その姿を見て、イエスは彼らに対してはらわたのちぎれる想いにかされました。イエスは自分についてくる人々が社会の中でどのような層に位置するか知っていました。この群衆は、食べ物を買うお金がない人がほとんどだったでしょう。この時イエスが裂いたパンはただのパンではなく、イエスご自身だったのではないのでしょうか。

「アンパンマン」はイエス・キリストと重なる部分があります。自身の体験から「戦争は人を殺すことだが、食べ物を分けることは人を生かすことであり、命を応援することだ」そう気づいたやなせたかしさんが生み出したキャラクター・アンパンマン。それまでのヒーロー像とはだいぶ違い、顔が濡れただけで力をなくしてしまうし、武器も持っていません。でも困った人や傷ついた人がいると真っ先に駆けつけて、自分の顔を食べさせることで元気を与えるのです。暴力で敵をなぎ倒すのではなく、傷つけられた人に寄り添って、命と体を守ってくれる。命を生かし、命を応援してくれる存在。あなたの命は応援されているよ、というメッセージを、神は聖書を越えて普遍のものとして私たちに約束してくださいませ。（國分美生）